

菊人形はいつ頃から始まったのが

毎年、如来寺境内で菊人形飾りが開かれています。今から80年ほど前に始まったもので、全国でも古い仲間の一つでもあります。大正年代に、如来寺の門前町の発展を願って始まった行事の一つであります。大正から平成にかけて移り変わりをみたいと思います。

門前町が大きくなった

古くから如来寺の門前町はありました。江戸時代には寺前から西南側の旧市場に商家が軒並んでいたようです。1901年（明治34年）頃になって、お寺の前から北市場への道路が新しくできて、現在の農協の北側から高岡にかけて店が10軒以上並びました。北市場商店街であります。1923年（大正12年）になると伊那電気鉄道元善光寺駅が開業して、駅から寺前の道路工事が始まっています。この新しい道路沿いにも多くの店が建ち並び始めました。1926年（昭和元年）には新しい道路沿いの店と、旧市場・北市場の店を合わせると、90軒ほどの大きな商店街になりました。このことが、菊人形と深くかかわっています。



お開帳の人形飾り(本田善光阿弥院如来を迎える、大正13年)

菊人形飾りの始まり

1925年（大正14年）に駅前通りが如来寺前まで開通したので、駅前から寺前まで新しい商店が建ち並びました。そこで、今村善香と駅前の有志の人によって、駅前の広場にテントを張って「安木節」の菊人形を飾りました。これが元善光寺菊人形の始まりであります。

次の年の昭和元年には新田の座光寺商工会の統一が進んだので、座光寺商工会の手によって劇場「衆楽園」が新築され、本格的な菊人形飾りが始まっています。舞台には迫り上がりの装置も調えられ、幾場面もの人形が飾られ、盛大だったといわれています。



最初の菊人形飾り「安木節」(大正14年)

祇園飾りの始まりと本田善光の人形飾り

1916年（大正5年）には座光寺生糸販売組合（共信社）の建前があったり、座光寺郵便局が開局して、旧市場通りも賑やかになりました。1920年（大正9年）には、市場商工同盟会による初めての祇園飾り「楠公父子桜井の別れ」が飾られました。1924年（大正13年）には駅前道路が中市場の三叉路まで開通したので、如来寺のお開帳に合わせて酒屋営業の今村善香が道路に面した池を使って、本田善光難波の池「阿弥院如来様の出会い」の場面を飾りました。



最初の祇園飾り 楠公父子桜井の別れ(大正9年)



衆楽園菊人形アーチー御大典記念(昭和3年)



衆楽園の菊人形飾り(昭和3年)

元善光寺菊華会の菊人形飾り

衆楽園の菊人形飾りも1939年（昭和14年）頃まで続きましたが、戦争の時代と経営難が重なって、衆楽園が取り壊されて菊人形も中断しています。太平洋戦争後15年ほど経った1960年（昭和35年）に「元善光寺菊華会」が新しく結成されて、菊人形会館も新築されました。人形飾りも舞台も専門の菊師によって飾られ、毎年のNHK大河ドラマの場面を中心にして大がかりな有料興行が続いていましたが、役員の高齢化によって、1996年（平成8年）に再び休演となってしまいました。

しかし、再開を願う人々の声が多く、1998年（平成10年）に役員組織を変え、市内の会社等からの援助を受けて、無料公演の菊人形飾りが復活しました。初めは、座光寺の春祭りの獅子曳きや原・宮崎の八木節踊りの1場面だけでしたが、子どもに親しみやすい菊人形飾りにするために、日本昔話・童謡の5場面が飾り続けられて10年になります。

2008年（平成20年）には再開10年を振り返って、2度目の座光寺春祭りの獅子と3人の獅子曳きが飾られまし



原・宮崎の八木節踊り(平成11年)



座光寺の春祭り天狗と獅子曳き(平成20年)



お正月(平成16年)

また麻績の里振興委員会と菊華会が協力して、小菊200鉢が如来寺境内から南市場・中市場の道路沿いに賑やかに飾られました。

(今村善興)